

賀藩の三百石を併せて六百石を受けてみた。夫人の逝去後十兵衛尚止り仕へ、之より三代の十兵衛が寛文七年自刃するに至つて絶炊した。

サハハシヒヨウダユウ 澤橋兵太夫 八丈島に流された宇喜多秀家に二人の男兒があり、その次男の乳母も之に伴うて渡海した。この乳母の子が澤橋兵太夫で、秀家夫人から前田利常に請うて、二百石を賜はつてゐた。後兵太夫母に逢ひ又故君をも問ふ爲、侯に暇を願うたが許されなかつたので、脱走して常珍坊と號し、江戸に出で、閨老土井利勝に目安を上つたが、十餘年を経て尚許されず、遂に利勝の計らひで、前田家から年々必需品を八丈島に贈らしめることになつた。これは有澤武貞の古兵談殘叢集記載の趣である。室鳩巢の駿臺雜話では、元和の頃將軍上落して二條城に入らんとする時、兵太夫が訴狀を上つたことになつてゐる。後種髪して亦利常の祿を承け、子兵太夫の時喪心絶炊したといふ。

サハムラゲンジ 澤村源次 ↓イシグロゲンジ 石黒源次。

サハムラジンエモン 澤村甚右衛門 佐藤伊右衛門の孫で、澤村甚兵衛の子。慶安元年前田利常の御射手となり、三年俸百石外に料五十石を受け、延寶二年歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

サハヤニザエモン 澤屋仁左衛門 江沼郡庄の人。庄は元祿の頃既に一市街の狀をなし、絹を織るを以て業とする所であつた。延享年間及び仁左衛門居を大聖寺に移し、大に斯業を興さんと欲し、其の法を戸々の婦女に傳

へ、又自ら販路を京師に開いた。因つて藩主は仁左衛門の功を嘉賞し、許すに絹頭の稱を以てした。爾來大聖寺の製絹愈盛大に趣き、本郡の主要物産となつた。

サハヲカチユウベイ 澤阜忠平 匪石と號し、攝津尼崎の人。永田流彫刻の名手であつた。しかし安永八年正月十三日澤阜忠平細工を巧みにするを以て、御大工並に召抱へ、五人扶持を給した時には、御國出生浪人となつてゐる。歿年は詳かでない。

サビヤヤマ さびや山 鳳至郡浦上のうち尺ヶ池の部落西方に在る山。高さ三四二米。地質第三紀層。

サビヤヤマ 佐比野山 鳳至郡上黒川の西南に在る山。高さ三八八米。地質第三紀層。**サフヤドウ** さふや堂 鹿島郡水白にある。能登誌に、『小竹村より久江村へ行く往來に、さふや堂とて地藏堂あり。此所より西街道へ行く道あり。昔此所まで入海にてありし故に、今も砂地にて濱邊の如き地面也。古戰場にて、いろ／＼怪異ありし故に建てたる地藏也。』と記する。

サブリウチ 佐分氏 大聖寺藩の重臣。本姓佐分利氏。蓋し前田氏本支共に利字を諱とするもの多きを以て、之を避けたのである。世々饒兵衛と稱した。明治二年八月廉平の時藩侯の命に因つて佐分利氏に復した。

サブリジロエモン 佐分次郎右衛門 前田利家に仕へて三百石を受け、後大聖寺役に討死した。子儀兵衛襲ぎ、前田利明に従うて大聖寺に赴き、千石を領し、剃髪して入齋と號し、寛文五年に歿した。

サブリマサヒサ 佐分政壽 大聖寺藩士。

學問該博、才氣敏捷。東方潛など、交り深く、隱居の後歌を詠じて餘生を樂しんだ。その歌集を竹屋遺草といひ、嘉永四年子政養之を刻した。

サブリマタハチ 佐分又八 養父喜左衛門は佐分次郎右衛門の次子で、前田利政に仕へ、後浪人して京都に在つた。又八實は中川庄左衛門の子で、前田光高に仕へ二百石を受け、その子七丞に及んで改めて中川氏を買した。

サヘキナホヨシ 佐伯直綱 初め才木流圓といひ、前田重熙の御厨間坊主となり、寛保元年同御附御歩として五十俵を受け、延享二年新番並に轉じ、寶曆十三年新知百石を得て組外に班し、苗字を佐伯と改めた。子直七は新番となつたが、天明元年職品を取請けたる體宜しからざるを以て禁年後殺害せられた。

サボウリン 砂防林 江沼・能美・石川・河北・羽咋郡の海岸には、大砂丘蜿蜒として連り、風威によつて畑を荒し家を埋める如き損害が多かつたから、加賀藩・大聖寺藩共に之が防止の策を講じて實績を擧げた。砂防林の施設は、承應三年河北郡に行ひたるを初とし、漸次他に及ぼしたもので、現に江沼郡鹽屋・瀬越・上木・篠原、能美郡安宅、石川郡安原、河北郡大根布、羽咋郡川尻・今濱・今濱新・宿萩谷等に藩政時代の植栽の跡を見ることを得る。何れも實垣を築き、その風下に合歡木・柳・ハヒネツ等を植ゑ、葎草を禁止して黒松の成長を助けたのである。

サミ 佐美 能美郡粟津郷に屬する部落。源平盛衰記壽永二年五月二日の條に、『源氏は篠原に城郷を構へて有けれども、大勢打向ければ堪ずして、佐見・白江・成合池打過て、安

宅の渡・住吉濱に引退く。』又同年六月一日安宅渡にて合戦の條に、『水巻・石黒林・富樫・佐見一門千騎にて寄合す。』と見える。江沼志稿に、この村領赤濱に産する砂は薄赤色で、壁の上塗に用ひると記し、佐美の枝村に濱佐美がある。

サミ 佐味 鹿島郡萬行保に屬する部落。建武二年七月十四日沙彌成光の讓狀には、佐見村と記し、天正十年十月廿一日前田利家の海門寺へ寄進狀には佐美としてある。

サミセンジマ 三味線島 羽咋郡安部屋の海岸を距る五五〇米、岩石海中に突出する所で、潮退く時は歩行して到り得る。一に向島とも、又辨財天の祠あるを以て辨天島ともいひ、直徑凡そ四〇米。

サミセンシミツ 三味線清水 江沼志稿に、江沼郡永井領の西に在る清水で、下流田地に灌漑するが、その音三味線を弾く音に似る故名づけるとある。

サミホ 佐見保 能美郡に在つた。康正二年造内裏段錢並國役引付に、『壹貫文、日野前大納言御領加州佐見保段錢』とある。今佐美村がある。

サムラヒチヨウ 士帳 加賀藩諸士の名簿で、老臣を初め人持組・馬廻組・小將組・定番馬廻組・組外の諸士、射手・異風・儒者・醫師・歩士・茶堂に至るまでの姓名と祿高を載せてある。府中衆士帳・慶長十年富山士帳・慶長十七八年士帳・元和元年乃至七年士帳・寛永四年士帳・同十六年富山大聖寺御人別帳・同十九年小松士帳・正保三四年士帳・寛文元年十一年士帳・延寶二年・元祿元年六年士帳・享保九年士帳が存し、近代のものは固より多い。